

世界唯一のカメラが捉える未知の世界

# 12K360度水中VRカメラ映像

見る人すべてを、知られざる水中の世界へ。  
超高画質水中VRカメラシステムが、  
誰も見たことのない鮮烈な映像世界を作り上げます。



慶良間諸島の海を撮影中の様子。バーの先端にある球体が12K360度水中VRカメラ

## NEPが独自開発した 世界で1台の12K水中VRカメラ

2019年、NEPは世界唯一の12K解像度(=ハイビジョンの36倍)を誇る360度VR水中カメラを開発しました。

水深約1000mまで対応する球体の耐圧ケースに、10台の4K・GoProと14個のLEDライト、長時間撮影可能なバッテリーを搭載。10台の高画質カメラが死角のない360度撮影を可能にし、没入感あふれる12K映像を生み出します。

このカメラを海に沈めれば、ダイビングを超高画質で疑似体験できる映像に。さらに深海に下ろせば、いまだ知られざる海中探検の旅へと見る人をいざないます。

### 座間味島「青のゆるる館」展示映像で “ケラマブルー”の世界を再現

沖縄・慶良間諸島にある座間味島に2021年度オープンを予定している環境省のビジターセンター「青のゆるる館」。透明度の高さで世界的に知られる慶良間の海と大自然を体感できる、同館の展示映像の制作をNEPが手がけました。

映像制作の最大のミッションは、“ケラマブルー”と称されるその美しさと多様な生態をありのままに再現すること。12K360度VR水中カメラが、それをハイクオリティな形で実現しました。

# 沖縄・慶良間諸島の海を12K撮影 ダイビングを疑似体験できる360度映像に

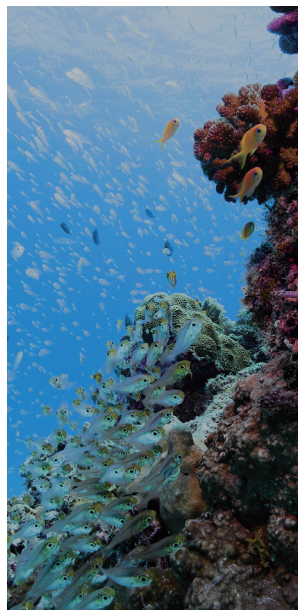


## 貴重な大自然を映像化 環境に配慮して撮影

美しい海とサンゴ礁だけでなく、ザトウクジラも頻繁に訪れる慶良間諸島の周辺海域と島々は国立公園(慶良間諸島国立公園)に指定されています。撮影にあたっては、NHKの自然番組と同様に、自然環境にできる限りダメージを与えないよう配慮。環境省が定める規則を遵守して行いました。

世界有数の透明度を誇る美しい海とサンゴ礁に抱かれた、沖縄・慶良間諸島にある座間味島の情報発信施設「青のゆるる館」。ここに設置されている、慶良間の大自然を120インチの大画面で体感できる展示映像を、NEPが12K360度水中VRカメラシステムで制作しました。

画面上にある島近海の8つのスポットから潜りたい場所を選ぶと、海の中へ映像がダイブ。映像は手元の操作で360度動かすことができ、右手には色鮮やかな熱帯魚、足元には巨大なサンゴ礁、上を見ればマンタがゆらゆら現れて……と、まさに実際にダイビングしている感覚で美しい慶良間の海と多様な生態系を体感することができます。



12K360度水中VRカメラは球体型で、全方位に配した10台のカメラで360度撮影を行うため、貴重な“決定的瞬間”を逃さないのが強み。この展示映像でも、ウミガメの姿やサンゴの産卵といった珍しいシーンの撮影に成功しています。

また、展示映像の制作では、撮影した生物やその生態の資料価値を見極める目が必須となるため、同館の展示映像では高知県立足摺海洋館館長の新野大さんに監修を依頼。撮影は水中カメラマンの奥村康さんが担当し、ダイビング上級者でなければ立ち入れない、潮の流れが早い海域や岩礁部にひそむ魚の生態を映像に収めることができました。

独自に開発した世界最先端の水中VRカメラと、NHKの自然番組制作で蓄積したノウハウを掛け合わせ、卓越した展示映像を作り出します。

## 圧倒的な没入感を生む360度映像

120インチの縦長スクリーンに映し出した映像は、手元の操作パネルをコントロールすることで縦横無尽に“360度”動かすことが可能。実際にダイビングをしているような感覚に浸れる、高い臨場感と没入感が味わえます

## サンゴの生態が眼前に

『青のゆるる館』の展示映像のワンシーン。その立体的な映像から、巨大な岩礁に形成されたサンゴ礁や、熱帯魚の群れを間近に観察できます

## 水中撮影の第一人者が 高度な撮影スキルを駆使

「青のゆるる館」展示映像の水中撮影は、30年以上のキャリアを誇る水中カメラマンの第一人者、奥村康さん(日本水中映像株式会社)に依頼。『ダーウィンが来た!』など、NHKの自然番組の撮影を数多く手がけ、フランスの海洋ドキュメンタリー映画撮影にも参加。その高度な撮影スキルと経験により、環境保護に配慮しつつ慶良間の海の貴重な生態を撮影できました。



## 水族館の大水槽を撮影 海底調査への導入も

この12K360度VR水中カメラ、2020年には池袋サンシャイン水族館の大水槽に沈め、ウツボやエイといった水中生物と戯れる360度映像を実現。LEDに照らされて魚たちの鱗が色とりどりに煌めく、知られざる“夜の水槽”の世界も映し出し、水族館の新たな魅力を引き出しました。

また、水深1000mまでの撮影が可能のため、海洋研究機関による海底調査への導入も検討されています。